

日時：令和8年2月6日（金）

午後3時00分～5時00分

会場：小山高等学校 第一応接室

1 開会（校長挨拶）

新構想高校と今後の小山高校の在り方について

御殿場南高校の跡地に新構想高校が設置される一方、小山高校は存続し独自の魅力化を図る方針である。地域に貢献できる人材の育成を掲げ、地域に根ざしつつ国際的な視点を持つ人材を育てる「グローバル探究（仮称）」への移行や、時代のニーズに合わせた昼間定時制への移行を今後検討。中学生や保護者の間で「小山高校がなくなる」という誤った噂が流れているため、正しい情報を積極的に発信していく予定である。

2 学校の近況報告、学校自己評価についての説明

(1) 全日制

教育活動の成果

・1年生全員が小山町役場でインターンシップを実施。今年度は、単なる職業体験に留まらず、生徒自らが課題を発見し、解決策を提言する形へ活動が進化した。また、高校生議会でも、具体的で質の高い提言を行った。

進路状況

・地元の御殿場小山広域行政組合の消防職では定員6名に対して3名が合格し、公務員採用の実績をあげた。（公務員採用への強さ）

自己評価の分析

・教員による生徒への評価は、厳しめになる傾向がある。
・不適切な盗撮事件への対策により生徒撮影時の県全体のルールが厳格化したため、Instagramの更新が停滞した。現在は個人所有のカメラではなく、学校が管理するSDカードを使用するなどルールを整備し、更新を再開している。

(2) 定時制

きめ細やかな指導

・教員全員が全生徒の状況を把握する情報交換会を隔月で実施し、トラブルを未然に防止している。

進路指導

・4年生全員が進路決定。地元の青年会議所と連携したキャリアミーティングを開催。直接対話することで、就職内定に繋がった事例もある。

安全管理と信頼関係

・「友人よりも教職員を信頼して相談できる」という数値が高く、信頼関係の深さが示されている。

4 学校関係者評価

- ・何段階で評価するのか指示がなく、記載が出来なかった。
- ・学校近隣での生徒の挨拶や通学状況は非常に良好であり、学校側の自己評価よりも高く評価しても良い。
- ・マラソンフェスタへの生徒の協力に対し、町から感謝されている。今後も地域と連携していく必要がある。

【「総合的な探究の時間」について】

- ・教職員による自己評価が低い。(47.8%) グループ活動ゆえに、個々の探究が深まりにくい。(学校側意見)
- ・生徒から「演劇をする意味がわからない」「将来、何の役に立つのか」という辛辣な意見が出ている。
- ・発信力やコミュニケーション能力の向上などの目的が生徒に十分に伝わっていない。
- ・演劇やSDGsは切り口であり、真の目的がプレゼンテーション能力の向上であるなら、それを生徒に明確に伝えるべきである。
- ・人前で自分を表現する能力は、社会に出てから非常に重要である。しかし、表現方法は演劇が適しているかについて再考の余地がある。
- ・表現方法に演劇を取り入れるなら、プロの指示を仰ぐ必要があるのではないか。
- ・探究の指導は教員の負担が大きいため、教員の負担軽減と、外部の専門家や探究コーディネーターなどをうまく活用することが重要である。
- ・他校で行われているような「特産品のメニュー開発」などの具体的な成功事例を参考にしたいという生徒のニーズ等を踏まえて、小山高ならではの魅力を打ち出す必要がある。

6 閉会 次年度の予定確認